

- ・ 現地について現況調査資料から、および現地をよく知る方に話を聞くと、行政界や大和川の存在も、周辺の居住者や通行する多くの人々にとってあまり意識に入っていない場所のようです。
- ・ このような中で今回設定されているコンセプト（とこの会議）は、多くの場所や人を「つなぐ」ことに意味があり、本来つなぐ機能が原点の橋梁そのものに対して、周囲のさまざまなものをつなぐ役割、これまで周囲の橋には無かった景観としての役割が期待されます。
- ・ コンセプトと検討事項・視点に謳われている内容は、全て素晴らしいことであり、このような構造物が実現できれば言うことは無いように思います。
- ・ 人が途中立ち止まって、自転車もゆっくりと（良くないですが・・・よそ見をしながら）走りたくなるような、また、自動車も橋を渡った先に進みたくなるような橋が、2つの市を斜めにつなぐ橋梁上部工で表現できればよいかと思います。
- ・ そこには必ずしも展望ポイントを作る必要はなく、街路灯やペーブの配置で動線を制御できればよいと思います。

- ・また、下部工はこれまで分断されてきた、特に左岸の上流と下流をつなぐイメージをつくるために、人が行き来できる構造をつくり、これからの架け替えの際に参考となる形状を示すべきかと思います。現状に基づいて考慮しないというその場限りの土木構造物ではなく、是非周辺も変えて皆がその場所に行きたくなる（河川事務所も整備したくなる）場所になればよいかと思います。
- ・眼で見てすっきりつながる形状や周囲を乱さない色彩だけではなく、行き来がすっきりできることで橋から遠く離れて過ごしていても人や河のつながりがイメージできることが景観の本質です。